

学校法人会計の特徴 — 家計簿に置き換えてみるとこうなる —

貸借対照表 → 財産管理表

A 資産の部 → 財産価格一覧	
土地	1,000
建物	450
家具・調度品	150
自家用車	200
株券	50
預金	100
現金	50
合計	2,000 (万円)

B 負債の部 → 借金一覧	
住宅金融公庫借入	1,000
銀行ローン	200
B 合計	1,200 (万円)

C 基本金・消費収支差額の部合計 → 自己資金一覧	
積立金	200
前年度までの繰越金	600
C 合計	800 (万円)

A 合計	2,000
------	-------

B + C 2,000 = Aと一致
--------------------

消費収支計算書 → 家計簿

A 消費収入の部 → 収入		B 消費支出の部 → 支出	
給料	5	家賃	5
仕送り	5	食費	5
		衣料費	1
		水光熱費	1
		通信費	1
		遊行費	2
収入合計	10 (万円)	支出合計	15 (万円)

消費収支差額の部合計 → 現金残	△ 5
---------------------	-----

学校法人会計について

学校法人会計をわかりやすく説明するために、家計簿に置き換えてみたのが上記の表です。貸借対照表における、A資産の部は、我が家にある財産のすべてをあらわしています。B負債の部は借金一覧、C基本金・消費収支差額の部は自己資金といった具合です。貸借対照表を見れば学校法人の全資産がいくらあるか、またそれは自己資金・ローンのいずれで構成されているかを見ることができます。

また、消費収支計算書は毎月（毎年）の家計簿といったところでしょうか。基本的にこの収支差額で学校法人の経営状況を判断することができますが、学校法人会計には基本金という特別な科目があり、また減価償却が支出に含まれますので、単純に収支差額は現金残とはなりません。

企業会計との違いについて

学校法人と企業の大きな違いは、利潤追求を目的とするか否かです。企業は利益の追求を目的としますが、学校法人は教育・研究を目的とします。したがって企業会計のようにいくら利益があるかを測定する機能は学校法人会計に存在しません。

しかしながら、学校を将来にわたり存続させることは学校法人の大切な役割です。そのために収支バランスを保ち、学校の主役である「学生」へのサービス向上に努めていかなければなりません。かつてのように、「経営」を考えなくても成り立つ時代ではありません。学校法人も企業同様の「経営努力」が必要です。そのための財政力強化は、すべての学校法人にとって最重要課題であります。